

SDGsとは?

SDGsとは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っている。

その目標期間はあと8年。「いま自分ができることは？」と考えることが、目標達成の第一歩。世界中の小さな一歩によって、8年後どんな世界が実現されるのか—それは他人事ではなく、私たち次第。SDGsをもっと知って、もっと身近な課題として再確認しよう。

2030年までに、経済・社会・環境の3つが調和した社会を実現するために達成すべき世界共通の目標でもある。社会や世界のあり方を大きく変革する取り組みともいわれるSDGs。取り組むのは、国連や国連加入の国々、政府はもちろん、自治体、企業、団体、そして私たち一人ひとりで。世界中の誰もが目標達成のための行動をとれることが、SDGsへの関心の広まり、高まりにつながっている。

SDGs in 一宮市

巻頭特集② わが街のSDGs Vol.1 もっと知ろう! もっと取り組もう!

2030年まであと8年

SDGs in 稲沢市

市が目指すまちづくりが持続可能な社会の実現につながる

稲沢市の最上位計画である「稲沢市ステータスアッププラン(第6次稲沢市総合計画)」では、「市民が、将来もずっと暮らし続けるまち」「名古屋圏で働く人が、暮らしの場として憧れるまち」を目指して「名古屋圏における本市の存在感向上」をまちづくりのコンセプトに掲げている。その中で、

- ① 攻めと守りの定住促進
- ② 若い世代が安心して子育てできる環境整備
- ③ 多種多様な産業振興
- ④ 次世代のための行政改革

の4つの重点戦略の実現に向け、優先的に取り組んでいる。これらの取り組みの具体的な内容はSDGsの各種ゴールと関連するものであり、市が目指すまちづくりを推進することが持続可能なよりよい社会の実現につながっている。

次世代のために「稲沢市ゼロカーボンシティ」を宣言

また、稲沢市では2021(R3)年9月2日に「稲沢市ゼロカーボンシティ」を宣言。次の世代を担う子どもたちが安心して暮らし続けることができる環境を残し、グリーン社会を実現するために、市民・事業者・行政が協働して賢い選択をする国民運動「COOL CHOICE(クールチョイス)」を実践し、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」実現に向けた取り組みを進めることを宣言した。

稲沢市では今後も、SDGsの各種ゴールの理念を達成するよう、市の事業を引き続き進めるとともに、市内の企業・大学等とも連携してSDGsの取り組みを進めていく。

「一宮市でよかった」と思える暮らしやすいまちづくりを

一宮市では、まちづくりの根幹となる「第7次一宮市総合計画」をはじめ、「第2期一宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略」や、「一宮市地球温暖化対策実行計画」第5次エコーアクション「一宮」などにおいて、SDGsのゴールと関連付け、SDGsを意識した施策を行っている。

SDGsの理念を通じて経済・社会・環境の調和を図り、「一宮市でよかった」と思える心豊かで暮らしやすいまちを推進する中で、昨年11月には「一宮市SDGsパートナー制度」をスタートした。

「一宮市SDGsパートナー制度」で広がるSDGsの輪

同制度では、一宮市でSDGsに関する活動をしている、または関心を持つ企業・教育機関・団体等から「パートナー」を広く募集。パートナーの取り組みを広く周知し、パートナー同士の交流・連携を促進し、各パートナーのSDGsの達成と一宮市域の課題解決に向けた取り組みを推進することを目的としている。

また、パートナーのSDGs活動を支援する団体等を「サポーター」として募集。共に登録期間は2031年(R13)3月31日までで制度開始から4カ月余りだが、既に200団体を超えるパートナーとサポーター10団体の登録があり、多くの企業・団体が関心を持っている(申請等の詳細は要問合せ)。

一宮市では、同制度を通じて市に関わるあらゆる人々とSDGsの輪を広げ、まちの発展に取り組むことで、持続可能なまちづくりの実現を目指していく。

主な取組み

ごみ出し辞典を改訂・ごみ分別新アプリ導入

11 資源循環 12 持続可能な消費

ごみを適正に処理し 資源のリサイクルを推進

改訂した「ごみと資源の分け方・出し方辞典」を全戸配付。また、収集日が事前通知される新しいごみ分別アプリを導入し、ごみ減量とリサイクルを推進する。

平成26年度版を改訂☆ 全戸配付



ごみ分別アプリが新しくなる!

「SDGs推進事業」によりSDGsの輪を広げる

17 持続可能なまちづくりに向けて

一宮市SDGsパートナー制度を通じて、2022年度(R4年度)は主に◇パートナー同士の連携機会を促進◇優良事例発表会の開催、などに取り組む。

一宮市 x SDGs

「一宮市SDGsロゴマーク」のこぎり屋根をモチーフに、一宮市SDGsパートナー制度開始に合わせて作成。



市内外へ、SDGsの取り組みをPR

8 産業・雇用と経済 17 持続可能なまちづくり

企業・大学と行政が連携

2021年度(R3年度)には、市内大学生主催のSDGs就活イベントへ出展。また、市内商業施設内にSDGsのパネル展示やチラシ設置を行った。



稲沢市ホテル保護条例を施行

15 陸の豊かさも守ろう

ホテルの保護をとおして 自然環境を守る

市内に生息するホテルを保護するため「稲沢市ホテル保護条例」を2020(R2)年11月1日に施行。自然環境の保全に寄与し多様な生態系の維持を目指している。



中学校にサポートルームを設置

4 質の高い教育をみんなに

多様な子どもの状況に応じた支援のために

サポートルームを2022年度(R4年度)は3校の中学校に設置。不登校・不登校傾向の生徒及び不安等により通常の学級に入れない状態にある生徒の居場所づくりと、社会的自立に向けた支援を行う。

公共施設のLED化を推進

7 持続可能なエネルギー 9 気候変動に具体的な対策を

二酸化炭素排出量を削減し 地球温暖化を防止

公共施設の省エネを図るため、リース方式によるLED照明の導入や施設修繕工事と合わせたLED照明への更新を実施し、二酸化炭素排出量削減に取り組む。

富田山公園の魅力の向上を

8 産業・雇用と経済 11 住み続けられるまちづくりを

水と緑を活かした まちをつくる

国産木材を使用したウッドデッキを設置して、木曽川河畔の眺望と憩いの場を提供する。



1~3年生向けのSDGsセミナーを実施

4 質の高い教育をみんなに 17 持続可能なまちづくり

将来を担う子どもたちと一緒に考える

紙芝居で学んだり、「地球が元気であるためにおうちでできること」を発表したりして、児童が身近なことからSDGsを意識することに繋がった。



稲沢市シティプロモーション特設サイトの公開

11 住み続けられるまちづくりを

「稲沢市に住んでよかった、ずっと稲沢市で暮らしていきたい」を目指す

「わざわざいなざわ?」では子育て情報やグルメ漫画、インタビュー記事などを通じて、暮らしやすい稲沢市の魅力を発信し、移住・定住を呼び掛けている。




特設サイトはコチラ

※上記の取組みは、令和4年度に実施予定

■問合せ/一宮市総合政策部政策課 TEL.0586-28-8952

■問合せ/稲沢市市長公室企画政策課企画政策グループ TEL.0587-32-1139(ダイヤルイン)

たとえば!

身近なこんなこともSDGsにつながる!

5 家庭内の役割を見直す	11 災害に備える地域の活動に進んで参加する	15 使い捨てをできるだけ減らす
6 油や食品を直接流さない	12 マイバックや容器を持参 食品や日用品を使い切る	16 選挙に参加する
7 節電を心がける	13 CO2排出量の少ない移動手段を選ぶ エコバッグやマイボトルを使う	
8 地産地消で地元の経済に貢献	14 海や川にゴミを捨てない	



1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう
10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう	

